

ASET 21 第 17 回議事録(案)

- (1) 日時 2009 年 12 月 18 日(金) 13:30~17:30
(2) 場所 大阪市立大学文化交流センター 会議室
(3) 参加者 井元 (テラバイト), 大内 (大阪市立大学), 小笠原 (五洋建設), 木下 (筑波大学), 佐藤 (JIP テクノサイエンス), 園田 (大阪市立大学名誉教授), 谷平 (前 近畿大学教授), 辻村 (JIP テクノサイエンス), 角掛 (大阪市立大学), 長谷川 (JIP テクノサイエンス), 巻幡 (JIP テクノサイエンス), 真鍋 (国際建設技術研究所), 安岡 (梶川土木コンサルタント), 院生 (6 名)

以上 19 名・50 音順・敬称略

(4) 資料

- 17-1 第 16 回 ASET 21 議事録(案)
17-2 構造物の衝撃問題における建築学会と土木学会の動向

(5) 議事

1. 記録確認[資料 17-1] ◆議事録の確認を行った。

2. 研究報告

- 1) 井元[資料 17-2] ◆構造物の衝撃問題に対する建築学会と土木学会の動向に関して、次の 4 点についての報告がなされた。

- ・建築学会の耐衝撃設計ガイドライン(案)の方針
- ・土木学会の過去 20 年来の活動成果と今後の方針
- ・爆発・衝突による構造物の被害事例
- ・衝撃解析の事例

建築学会では、耐衝撃設計に対するガイドラインの策定を開始しており、人工的な衝突と爆発に伴う作用を考慮する方向で進めている旨の報告があった。続いて、内閣府原子力安全委員会の勉強資料として、直下地震による構造物の衝撃的な破壊現象に関する活動について説明があった。最後に、衝撃シミュレーションの例として、9.11 の航空機突入解析についてデモを見せていただいた。

- 2) 大内 ◆Applied Technology Council Conference への参加報告がなされた。ATC は ASCE の内部委員会の一つであり、今回、12 月サンフランシスコで開催された会合に出席した。アメリカの耐震研究の動向として、構造物については、終局時以降もしくは崩壊寸前の状態を狙った設計の可能性について研究しているとの報告があった。

- 3) 木下 ◆「人口(増加)と自然環境を考える機会の 1 つとして聞いてほしい」という議題のもと、生物学者 Paul R. Ehrlich によるマルサス主義者(悲観論者)と経済学者 Julian L. Simon によるコルヌコピア主義者(楽観論者)についての説明がなされた。

3. 次回の予定

- 1) 日時 : 2010 年 3 月 5 日(金) 13:30~17:00
2) 場所 : 大阪市立大学 田中記念館 会議室
3) 話題提供予定
1. 小笠原氏(五洋建設) 港湾栈橋上部工梁を対象とした DFRCC 補強実験
 2. M2 高橋孝輔 せん断面に斜交配筋された鉄筋の履歴挙動
 3. M2 山田佳博 CFT 柱部材のせん断耐力評価
 4. M2 王喜 トンネル切端のひずみ軟化挙動に関する数値解析的研究
 5. その他